

東方出版

在家仏道入門

田原 亮演著

著者の33年間にわたる仏道の歩みから得られた宗教体験と境地の深まりが記された一冊。タイトルにあるように悟りを開くための修行を指す「仏道」に焦点を合わせた内容となっている。

著者の33年間にわたる仏道の歩みから得られた宗教体験と境地の深まりが記された一冊。タイトルにあるように悟りを開くための修行を指す「仏道」に焦点を合わせた内容となっている。

千枚護摩供、虚空蔵求聞持法、断食行の際、実際に心や体にとどのような変化があったのか詳細にそ

「何を行じたか」より「行じてどのような境地になったか」が重要であるということに他ならない。それ

「仏道に在家・出家の区別はない」。純粋な発心と実践さえあれば、「在家でも立派な仏道者である」と、著者は本当に仏道を求める者に向けて暖かい励ましを与えている。

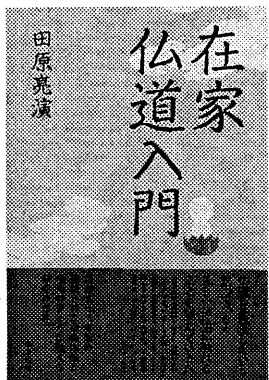
仏道に在家・出家の区別なし

は意外に少ない。境地や宗教的体験を言葉により表すことは難しい。知を

の記録を追うことで、まるで行を追体験しているような思いを抱かせる。当時の記録に対して現

また本書は、実践的な手引き書としての内容も充実している。在家の仏道の実践には瞑想・内観

仏教が形骸化していると言われる中、それは著者から宗派を超えて全ての求道者に向けて伝えたかった大事なメッセージに思えてならない。(四



超えた直接体験こそが境地を深化させ、次の領域に至らせるからだ。

その点、本書では著者が行った真言宗の行である八

味深い。特にこれから修行を推奨し、明師に就くことが難しい人にも正しく

修められるよう具体的な方法が事細かに記してあるので分かりやすい。記された方法は決して難しいものではなく、寝て行うものや座って行う内観法も紹介する。これから仏道を実践しようとする者の一助となるだろう。

六判・165頁・価1575円